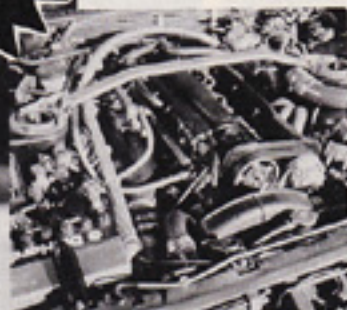


トライアル

大阪府堺市八下町4丁102-9 ☎0722-54-7039

Best time
11秒262



腰下はバランス取りすらしていない、というエンジンでもこの仕様で1年半ものあいだトラブルは無しだった。トライアルでは巧みなバルタイと燃調により大きめのタービンでも、回して、しまう。

よくあるGT-R仕様
ノーマル腰下に無理は禁物!

TUNING DATA

●エンジン&駆動系
東名ピストン 圧縮比8.5 東名カムIN66度/EX68度 東名バルブSP TD06L2x2 AVC-R 最大ブースト1.8kg/cm² HKSレーシングウェストゲート トラストインタークーラー プリッツEXマニ アベックスマフラー トラストオイルクーラー オリジナル大容量ラジエター F-CON+GCC II メイン680ccx6 BP-ZETA プリッツプラグ8番 OSトリプルプレート

●サスペンション
オリジナルビルシュタインキット

●タイヤ&ホイール
ポテンザRE520S (F) 235/45-17 (R) 245/45-17
ボルクGTPデイトナ (トライアルバージョン) 9J-17



TIME-ATTACK DATA

	タイム	設定ブースト	クラッチミート	レプリミット	タイヤエア圧	備考
1	11秒262	1.8kg/cm ²	7000rpm	9000rpm	2.0kg/cm ²	
2	11秒510	1.7kg/cm ²	7000rpm	9000rpm	2.0kg/cm ²	メタルラブル

「街乗り仕様」とはいえ、A/FモニターでGCCIIのセッティングをするくらい、燃調にはシビアにこだわっている。

トライアルからエントリーしてきたのは、南大阪店店長の嶋伸さんの愛車。「ストリートゼロヨンのお客さんにもっと近い仕様」というこのGT-Rは、ゼロヨンを楽しむには最低限やっておきたいチューンをおさえただけで、ここ谷田部にも自走で参加してきたらしい。

それでも10秒台を狙ってか、ブーストの上げすぎで2本目にはメタルから音が出てしまいリタイヤとなってしまった。エンジン本体は、ほぼノーマルという状態で今回のトライはちよっとキツかったみたい。

「エンジンの性能以上にパワーが出てしまうGT-Rだけに、腰下の強化が必要」という事前のコメント通りの結果が残念ながら現実となってしまった。

SRシンコウ

千葉県松戸市紙数852-1 ☎0473-91-8159



ストリートマシンとして要求される性能は、ドラッグマシンとはちよつとちがう。速くても壊れない、これがポイントだ。



Best time
12秒070

TIME-ATTACK DATA

	タイム	設定ブースト	クラッチミート	レプリミット	タイヤエア圧	備考
1	13秒285	1.5kg/cm ²	7800rpm	8000rpm	1.5kg/cm ²	
2	12秒070	1.5kg/cm ²	8500rpm	8800rpm	1.5kg/cm ²	
3	12秒972	1.5kg/cm ²	8200rpm	8500rpm	1.5kg/cm ²	CPU変更
4	12秒567	1.5kg/cm ²	8200rpm	8500rpm	1.5kg/cm ²	CPU変更

サージタンクやヘッドまわりはあざやかなイエローに。モノクロではお見せできないのが残念なほどきれいに手入れされている。

壊れず、安全で、しかも速い!!
ストリートのための楽しいクルマを!!

SRシンコウのマシンは完全なストリート仕様。いつもは谷田部の門の外で(?)ブイブイいわせているクルマだ。

SRシンコウの考えるストリートマシン(それが目的を絞った仕様だとしても)の第一条件は壊れないこと。もちろん今回のタイムアタックでも4本をノントラブルで走りきった。

今回のゼロヨンでは8500rpmミットの8800rpmシフトがベストタイム。これでゴールは4速7000rpmとなる。結果は12秒070。最近ではストリートにも速いクルマが多いから、最速を目指して、さらにクロスミッション(3速クロスでじゅうぶん)と4・3くらいのファイナルを入れたということだ。

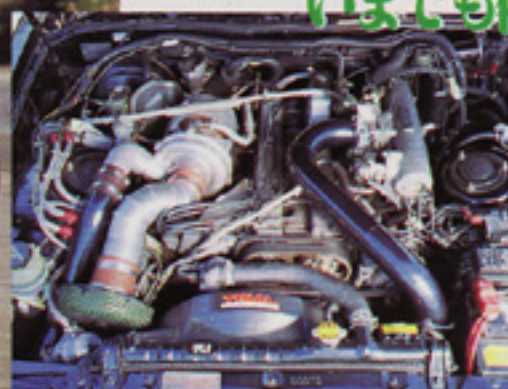
195. OPT2 2A

あの時と比べると、ホイールがボルフォGTPに変更されたのがスグにわかる。当時はGT-Rのノーマルを流用してたもんね。

トリアル スープラ

オーナー
ドライバー 泉晋一くん
トリアル村山さん

1G-GTチューンに
こだわった70スープラは
いまでも健在!



2.4リッター、コンピュータのエンジン制御がわりわりといいけど、マフラーが「アベックスRS」に交換されていた。

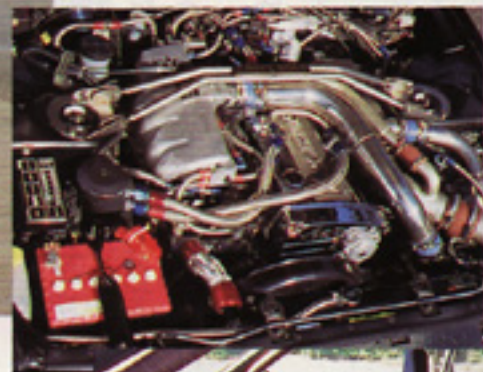


記念すべき第一回目のチューニングファミリーは、大阪のトリアル南大阪店で行われた。その時の「イチオシ」だったのがこのGA70スープラ。
親子そろってのチューニング好きと関西方面で有名な(?)泉くんは欠席だけど、トリアルのスタッフの村山さんが代理で出場することになった。
ゼロヨンでのタイムトリアルだけを考えたら、やはり「JZスープラ」のほうが結果は出せるかもしれない。しかし「JZ」には負けたくないという泉くんのこだわりは強い。それに応えるべくトリアルが気合を入れてチューニングしたエンジンは、2.4リッターにRHC7タービン仕様。
ただ、やや大きめのタービンはピーキーな特性で、高回転でクラッチミートすると、255サイズのP-ZEROでも激しくスピンしてしまう。どうしても回転を抑えてのスタートになってしまうのだ。
「1、2速でタイムを稼げないからキツイですよ」と村山さんは嘆いてたけど、泉くん、このタイムなら納得できたしよ!?

アビロード スカイラインGTS-t

オーナー/ドライバー 増田英亮くん

打倒GT-Rを目標に造ったGTS-t
まだまだこれからも
ステップアップするぜ!



エンジンルーム内でも、タービンターボ、パイピングが変更されていた。こんどはタービンをTD08の25Gにするのが決まってるんだって。

あれから、予定していた足まわりをはじめ、チタンマフラー、ボンネット、サイドステップ、Fリップスポイラー、ブレーキローターにスパルコホイールと、まだまだずいぶんイジったもんだねー。



OPT2読者ならロールバーが加わったのに気がつくでしょ。じゅうぶんスゴかったオーディオもでっかいスピーカーがさらに装着されていたよ。

アビロードの「イチオシ」として登場し、去年のオートサロンにも出展されたGTS-tだ。もうやるどころがないといわれるマシンだけに、タイムには興味が集まっていた。
ところがそんな外野の予想とはウラハラに、いつもサーキット走行を楽しんでいる増田くんは、「ゼロヨンはあまりやったことがないから、スタートがチョット……」と不安そう。
「最後はブーストを1.5kg/cm²まで上げちゃいましたよ、こんなに限界まで高めたのははじめてですよ」
タイム短縮に相当熱くなってみたいで同行して来た。スタートの達人に教わりながら走ってるけど、どうしてもスタートがネックになってしまった。「少しずつコツがつかめてきましたけど、けっきょく今日はスタートの練習でおわっちゃいましたね。GTS-tのボディだから、太いタイヤが入らないのも問題ですよ。実はボディをワイド化する計画もあるんです。まだまだ、やりたいことはたくさんありますよ!」

不定期連載
第4回

SPLインプレッサ・スポーツワゴンの
ノウハウをストリートに生かす

トライアル『Across Wagon』 いよいよT1サーキットで タイムトライアル開始!!

東京オートサロンのトライアルブースでついに公開された“Across Wagon”みんなはもう見てくれたかな? 今回は、あのF-1パシフィックGPが行われている岡山のT1サーキットに“Across Wagon”を持ち込んでサーキットアタックをしたときの報告をしよう。

ドレスアップパーツもぜんぶ完成したし、足まわり、パワーアップチューンもなんとか間に合った。さ~て、いったい何秒のタイムができるか? 注目のワゴン車ベースのサンデーレース位様がシェイクダウンだ!

Marlboro Marl

リヤスポイラー、サイドステップも完成して、ドレスアップは完全にできあがり。アクロスのボディパーツとインテホイールを履いたインプレッサは、サーキットで見ても違和感なし。あとはサーキットでの実力さえ確認で

「ワゴンのサンデーレースマシンを作ろう」なんて、常識はなれた企画を思いついてから早1ヶ月、色いろあったけど、ついにサーキットを走って

シイクダウンはもう済ませた



'95. 2月号 OPT 2

タイム計測をしてみようというところまでこぎつけたのだ。

テストコースは、トライアルお得意のT1サーキット。本番テストの前日に軽く試走してみたところ、ウエット路面にも係わらずタイムは、2分4秒となかなかのもの。幸い明日は晴れだっというし、これは期待してもよさそうだぞ！

翌日はバッチリ晴れ、コースもところどころ濡れているけど、ほぼドライコンディションだ。

ドライバーは、トライアルの開発ドライバーの金Qさんだ。

数周のアタックであっさり1分55秒58をマーク。これは、T1サーキットの2とターボのコースレコード、1分53秒台（HKS関西の向井さんがランエポで記録）まで、あと2秒というものだ。サスのストローク量やタイヤサイズ、エンジンのフィーリングについてもまだまだこれから、ということなのでレコードを塗り替える日も近い、といったところだ。

ドライバーの金Qさんに、これからのチューニングポイント、さらに課題を聞いてみよう。

トライアル開発・ドライバー 金久憲司



今回はオートサロンに出展する状態で走ってみただけで、サーキットでタイムを出そうと思ったらまだまだやるべきところがたくさんある、ってかんじで



「まずはノーマルで走って……」の予定通り、ノーマルのデータを取ったみたら1分59秒だった。オーリンズサスを入れたところ、ナント実質4秒ものタイムアップが果たされたことになるんだな、これが。

すね。これからの煮詰め段階です。215の17インチのタイヤを使っていきますけど、タイムアタックには幅を広げて225の16インチを使ったほうがいいんじゃないかと思えます。

足まわりは、ブッシュ類がまだノーマルだし、スプリング（現仕様はF・9kg/■、R・8kg/■）もいろいろ試してみないとダメですね。セブラにガンガン乗り上げてコーナーリングできるようなにならないと、タイムも詰まってこないでしょう。

コーナーの立ち上がりで早めにアクセルを開けると、アンターが出てしまうFFっぽいところもあるから、フロントに1ウェイのLSDが欲しいところですね。

50秒台を狙うためにはエンジンのパワーがもう少し欲しいですね。

FF感覚で走れるクルマですから、キマれば誰が乗ってもグリップ走行で速いクルマになりそうですヨ。

トライアルインプレッサが「T1サーキットで50秒台を目指す」とはいいっても、ストリートでの使い勝手を犠牲にしたチューニングはしない、というのがコンセプト。だから内装などはそのまま、しっかり5人乗れる状態なのだ。OPT2インプレッサの「オールマイティな使い方のできるクルマ」というコンセプトに対して、オールラウ



なんとカオトサロンにドレスアップパーツはすべて間に合った。リヤスポイラーもサイドステップも、ストリートで使えるさり気ない形に仕上がったでしょ！



エンジンルームではアベックスのスーパーインタークーラーを装着したところまで、タービンなどエンジン本体によるパワーアップはこれからの楽しみ！



エアクリーナーを高効率なモノにしたことにもなって、アベックス-AFC（エアフロコンバーター）によりエアフロ信号の補正を行い、燃調はFマネージ・Q/NとAIDで取る。そしてブーストをAVCRにより0.9kg/cm²まで高めている。



T1サーキットの目標は
あくまでも1分50台！

95 2月号

増田くんGTS-t

ベすとたいむ

12秒75



スタートが
うまくいかねーっ!
ホイールスピンの
止まらねーっ!

シメシメ、今や...
ラインロック使おうて
タイヤ温めたら

あの一、
スタートしても
いいんだけどさあ...

チクショーっ、
ど〜もリヤタイヤの
グリップが、
ブツブツ...

泉くんスープラ

ベすとたいむ

13秒53



鈴木くんシルビア

ベすとたいむ

12秒83



どうや?
タイヤ温めたら
タイムは?

もう一歩って
どこですかねえ

田名邊さん、
ボ・ボク...
緊張してるんですけど...

ひゃっひゃっひゃっ、
へーき、へーき、
バッチリ教えて
あげるからさ

模様 in 谷田部

角田くんGT-R

ベすとたいむ

12秒18



ふふっ、
こんなでかいタービンじゃ
サーキットじゃカメだせ。
サーキットじゃあな
(オシのスープラも
持って来たかったなあ...)

ベすとたいむ

14秒65

工藤くんFD



いいが、
ゼロヨンするのはなあ、
プラグで1秒は変わるんだぜ

ほんとかいな?



小林くんGT-R

ベすとたいむ

10秒92



おおっ〜速えーっ!
FDってこんなに
速かったのー?

キミイ
ヘルメットは?
なにしに来たの?

えっ!?
ゼロヨンやれって
言われたんですけど...



彼はゼロヨン初体験。すんごくタイムは悪い
んだけど、回を重ねるたびにタイムが縮まっ
ていた。なにより楽しそうなのが印象的。



集まれ!! チューニング ファミリー スペシャル

谷田部ゼロヨン大会の巻

時：12月4日
於：日本自動車研究所(JARI)

第4回『アピロードの巻』代表

増田英亮くん スカイラインGTS-t (HCR32)

「ゼロヨンはあまりやらないので、うまくスタートできるかどうか心配ッス」



93年11月号登場

第5回『トップフューエルの巻』代表

鈴木秀紀くん シルビアK's (PS13)
(代理ドライバー トップフューエル平野さん)

「谷田部の朝は寒いので空燃比も心配だし、タイヤの食いつきも悪そう…」



93年12月号登場

第7回『パワーハウスアミューズの巻』代表

角田和久くん スカイラインGT-R (BNR32)

「サーキット走行会のスタート練習だと思って、がんばります!」



94年4月号登場

「あいつにだけは絶対負けたくない。ライバルにテールランプを拝ませてやるために、ありったけのお金と情熱を注ぎ込む。興味がない人には“バカなことやってらあ”くらいしか見えないかもしれない。でも、それが俺たちの生き方なのさっ!」

ってことなら、競ってもらいましょうか。てっとりばやく性能をチェックするにはやっぱりゼロヨンに限る(ちーとばっかし強引ですか?)。てなわけで、これまでの“集まれ//チューニングファミリー”のイチオシ(一部違うクルマもあり)を一堂に集めてゼロヨン大会をやってみることにした。

ストリートでは、全開できるところが少なくなつてストレスも溜まっていることだし、なにより谷田部のテストコースを走れるなんてメツタにないことだ。

まあ、今日はいままで“チューニングファミリー”に集まってくれた人への感謝デーってとこだ。日本全国入り乱れての、夢と希望と期待とロマンの熱いタイムアタック、タツプリと見せてもらいましょうっ!

第1回『トライアルの巻』代表

泉晋一くん スーブラ (GA70)
(代理ドライバー トライアルの村山さん)



「泉クン(オーナー)に怒られないようにがんばりま〜す」

93年7月号登場

opt 2 195.2A04

前代未聞の多彩な顔ぶれ!

思えばすごい企画だった——
なにしろ数が多い。数だけとってみても未だ
経験したことない台数だということに、やって
来るのはGT-Rの強烈チューンドばかりと
きたもんだ。いったい何が起こるのか……
まったく想像つきやしない——
今ひとつ言えるのは“何事もなく無事終わっ
て良かったな〜”だ。協力してくれたショッ
プのみなさんに感謝感謝

やった、
うちのが
速いぞ〜!

次は8秒台が
できるかな?

……
(んなわきや
ネーだろっ!)

ビリビリ——ビリビリ——

だいじょうぶツスかあ〜?

エンジンは絶好調なんやけど…
タイヤがあかんあ…

「最速の座はオレがもらった」 激突する29シヨッフ。 興奮度120%!!

さて、
ポチポチ
いくか…

ウチは
マイペースで
いきまっせ

グワ〜オオ〜グワ
グワッ!

オットット/
ヤバイかなあ?

オ〜ッ、
こわッ

GT-Rゼロヨンの レギュレーションはこうだ!

OPT2タイムアタック統一規則

- 《車両》
- 基本的にナンバー付きの車両であること
 - タイヤはストリート用に限定(路面保護のため)
 - 直管はダメ
 - ほかなんでもあり
- 《走行条件》
- 計測は光電管使用
 - ドライバーはショッフ担当
 - ラインロック禁止(路面保護のため)
 - タイムアタックは練習走行も含め4本まで

平成6年12月4日、晴れ渡る空のも
と、日本自動車研究所総合試験路にG
T-Rが次から次へと運び込まれてき
た。
総数29台。BNR32型スカイライン
GT-Rによる、今世紀最大のゼロヨン
銀河一決定戦だ。
しっかしまあ、よくぞ集まったもん
だ。どいつもこいつも、ほんとすごい
クルマばかり29台も!
高価なパーツを惜しげもなくふんだ
んにブチ込んだGT-Rがこれだけ集
合したとなると、改造費のトータル額
は一体いくらくらいになるんだろう?
きつと、目ん玉飛び出すくらいスゲー
金額なんだろうなあ。想像すらした
くない…
ついついピンポイントっぽいことをこ
ぼしちやっただけで、GT-Rオーナーに
とっちゃ、そんなことどうでもいいん
だよな。とにかく人より少しでも速く
したいがためにチューニングに没頭す
る。一度ハマってしまった人にとって
は、チューニング費用など知ったこと
ではないのだ。

。速ければエライ。——速さによっ
てすべてが報われるのだから。
さすがにこれだけ名だたるショッフ
が顔を揃えるとなると仕様もそれぞれ
違うのでおもしろい。まるで個性と個
性のぶつかり合いだね(ヨソとおんな
じことをやっても上は狙えない。とい
うヨミもある…んどうろ?)
おのおのポリシーをはっきり感じ
ることが出来るのは、ひとりひとりの
チューナーにとってGT-Rがいかに
思い入れの深いクルマであるか、とい
う証拠でもあるわけだ。
ま、いずれにしてもパワーにして7
00psだの800psだのという、甲乙
つけがたいとんでもないバケモノがズ
ラッと顔を揃えているだけに興味は尽
きない。
ちまたではR33型GT-Rのウワサ
でもちきりだけど、そんなのなんのそ
の。まだまだR32が旬なのだ。なん
てたってR32あつてのR33だもん、
完成度からすりゃ当分はR32に分があ
るってもんだ。最速マシンの座は当分
ゆずれないヨン!

高まる緊張感、張り詰める空気…

タダモノならぬGT-Rがこれだけ集まると
場の空気もフツじゃない。トップを狙って
来ているショッフはみんなビリビリ、近寄り
がたい雰囲気かピーンと漂う。
それもそうだろう。なにしろショッフの名誉
と威信を賭けたGT-Rオンリーのゼロヨン
決戦。あっさり負けて引き下がるわけにはい
かないもんな。